Report!

国家資格の医療技術者として眼科診療を支える

医療最前線 >>>vol.45

川崎医科大学附属病院

視能訓練士

感覚器センター 眼科 主任
春石和子 *Kazuko Haruishi*

必要な検査結果を的確に検出。早期発見、早期治療につなげる。

包み込むような優しい笑顔が印象的な春石和子さんは、キャリア十四年を誇る視能訓練士(Certified Orthoptist:CO)。川崎医科大学附属病院 感覚器センターの眼科に勤める。「視力、眼圧の測定、疾患によって眼底写真や網膜の断層写真撮影、視野検査、斜視検査など、眼科におけるほとんどの視機能検査を私たち視能訓練士が行なっています」。検査のほか、弱視や斜視の患者さんの視機能を回復させるための視能訓練も担当。また市町村の三歳児健康診査にも出向いている。

春石さんは、日々進化する眼科診療の最前線で、十四人の視能訓練士の要として、年間約二万七〇〇〇人の患者さんの診療を支えている。

近年の眼科領域での医療器機の進歩とそれに伴う診断技術の進化は著しい。OCT(光干渉断層計)はそのひとつで、網膜の状態が細胞レベルでわかるようになった。

「最新型のOCT装置を使っての検査も視能訓練士が行ないます。その検査データをもとに医師が診断をしますので、的確な診断につながるよう、技術の向上、最新知識の修得に日々努めています」。

仕事のやりがいについては?との問いに…。

「問診と当初予定していた検査の結果から、疑われる疾患を想定して、診断の確定に必要な検査を医師と相談しながら行ない、疾患の早期発見、早期治療につながった時です」と語る春石さん。

「眼科は糖尿病などの全身疾患が原因で眼疾患を発症するケースや、眼所見から高血圧や脳腫瘍などの全身疾患が発見されるケースがあるため、普段から他科と連携して総合的に治療にあたっています」。

超高齢社会を背景に、さらに期待される視能訓練士の存在。

現代の眼科診療チームにおいて重要なポジションを担うようになった視能訓練士。では春石さんがそもそも視能訓練士をめざすようになったきっかけは?との問いに…。

「中学生の頃、近視による視力低下で眼科を受診しました。その時のスタッフの方の仕事ぶりが印象的で、調べてみたら視能訓練士という国家資格があることを知りました。もともと医療系には興味があったので、視能訓練士の育成ではパイオニア的存在だった川崎医療福祉大学に進学しました。四年制大学で専門性の高い知識と技術が学べる環境が地元の岡山県内にあったことがこの道へ進むきっかけとなりました」。

全国初の四年制の視能訓練士養成機関として開設され、現在も中四国で唯一の川崎医療福祉大学で学んでよかったことは?

「臨床経験が豊富な先生から学べたこと。また医科大学附属病院が大学の隣にあり、臨床実習が充実していました。加えて、実際の手術の見学や、最新の検査機器が設置されているので、その時代の新しい実技を実習できたのもよかったです」。

超高齢社会を背景に、糖尿病網膜症や緑内障、白内障、加齢黄斑変性など、眼疾患の患者数は今後さらに増加すると予想されている。眼科医と比較しても視能訓練士の数はまだ少なく、それだけに各方面からのニーズは高い。春石さんをはじめ、視能訓練士の役割が今後ますます期待されている。

お問合せ
川崎医科大学附属病院(倉敷市松島577)
☎086-462-1111
http://www.kawasaki-m.ac.jp/hospital/

■2016年8月25日号掲載
本文中の医学情報、写真は掲載当時のものです。

Certified Orthoptist

視能訓練士とは

国家資格の医療技術者。医師の指示のもと、視力・屈折・眼圧・視野などの視能検査、斜視や弱視などの視能矯正、検診、リハビリテーション指導などを行なう。視機能が十分に回復しない場合は、患者さんが持つ視機能を最大限に活用することで、快適な生活を送れるよう支援に取り組む。眼科治療は近年飛躍的に進歩しており、高度化する診療の現場でますますの活躍が期待されている。

視能訓練士になるために ～春石さんが歩んだ道～

- 川崎医療福祉大学 感覚矯正学科 視能矯正専攻入学
- 同上を2003年に卒業後 川崎医科大学附属病院勤務
- 川崎医療福祉大学 感覚矯正学科 非常勤講師
- 川崎医科大学附属病院 副主任視能訓練士
- 現在、感覚器センター 主任視能訓練士として活躍中

眼科診療をサポートするスペシャリスト

視能訓練士に求められる素質とスキル

- 診断につながる検査データを総合的に評価できる知識と判断力
- 患者さんや他職種との臨機応変なコミュニケーション力
- 進歩する医療と医療機器への順応力と探究心

眼科にとってなくてはならない存在

眼科の検査というと視力検査を思い浮かべる方が多いでしょうが、眼科では視力検査以外にもさまざまな検査をしています。検査法や検査機器はどんどん進化していきますので、臨床現場で働くためには日々研鑽を積むことが必要ですが、こういった眼科の検査の多くを行なっているのが視能訓練士です。一方、視能訓練士には弱視や斜視に対する視能矯正という仕事もあります。視能訓練士は眼科医とともに、今や眼科になくてはならない存在となっています。

三木 淳司 川崎医科大学附属病院 眼科教授

眼科医に的確なデータを提供して眼科医療をサポート。また斜視や弱視など視機能に障害を持つ人に、専門的検査や矯正訓練を行なうのも重要な仕事のひとつ。

川崎医科大学附属病院の感覚器センター(眼科)に所属する視能訓練士たち。他科と緊密に連携しながら患者さんの気持ちに寄り添ったチーム医療に取り組んでいる。

近赤外線を利用して網膜の断面像を得ることができるSS-OCT(光干渉断層計)を使った検査。患者さんにほとんど負担をかけることなく加齢黄斑変性や黄斑円孔、網膜浮腫などの診断に効果を発揮。